

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2023年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業269社
3. 内 訳：製造業59、卸売業27、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：158社（58.7%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－業況、売上、採算全てプラス水準に 各種経費の上昇、従業員不足が課題－ 前年同期（2022年4月～6月）と比べた今期（2023年4月～6月）の状況 今期と比べた来期（2023年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは23.1で、前年同期と比べ24.1ポイント上昇し、プラスに転じました。業況は4期連続、売上は5期連続のプラス水準で、採算は各種経費の高騰により低調に推移しているものの、2015年度第3四半期調査以来のプラス水準となりました。売上DIは全ての業種でプラスとなり、卸売業、小売業、観光業、サービス業では主要3項目DI全てがプラスとなりました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題です。

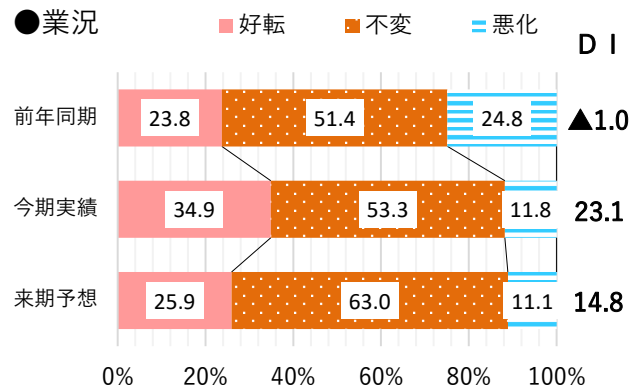
業種別業況DIは、製造業が同23.5ポイント上昇の▲6.2となりました。売上DIはプラス幅を伸ばしましたが、業況DIと採算DIはマイナス水準で推移しました。食料品、金属製品の全企業で原材料仕入価格が上昇しました。卸売業は同42.1ポイント上昇の42.1となり、主要3項目DI全てが大幅に上昇しました。業況、売上、引合いは全企業が増加または不変と回答しており、堅調に推移しました。小売業は同6.6ポイント上昇の10.5となりました。売上DIはほぼ横ばいで、採算DIはプラスに転じました。食料品を中心に売上や採算の好転傾向が見られましたが、家電や家具を扱う大型店、ホームセンターでは売上や客数が減少しました。運輸・倉庫業は同36.8ポイント上昇の13.3となりました。旅客は全企業で売上が増加しましたが、従業員が不足しています。貨物や倉庫では約4割の企業で売上が減少しました。観光業は同0.1ポイント上昇の66.7となりました。売上DIと採算DIは低下しましたが、プラス水準をキープしています。7割超の企業で売上や利用客数が増加しましたが、ほぼ全ての企業で仕入単価が上昇しました。約7割の企業で従業員が不足しています。サービス業は同20.7ポイント上昇の25.0となりました。売上DIと採算DIも上昇し、プラス水準となりました。飲食店と写真業の全社で仕入価格が上昇しました。建設業は同14.5ポイント上昇の10.0となり、プラスに移行しました。売上DIが大幅に伸長し、プラスとなりましたが、採算DIは低下し、マイナス幅を拡大しました。従業員DIは前年同期比で大幅に上昇し、プラスに転じましたが、従業員不足は依然として主要な課題です。

来期の業況判断DIは14.8で、好転傾向が続くと予想しています。観光業を中心に売上や客数の増加が見込まれますが、全ての業種で仕入単価や経費の上昇による採算の悪化が課題です。

業況、売上、採算

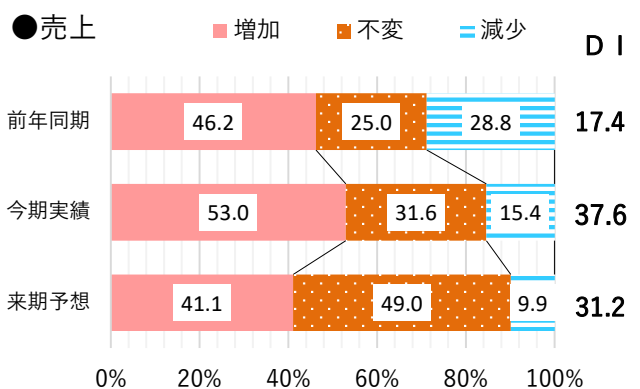
今期（2023.4～6）の業況判断DIは23.1で、前年同期（2022.4～6）と比べ24.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



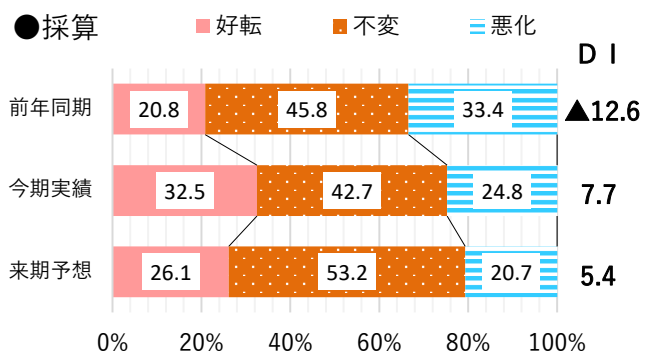
今期の売上DIは37.6で、前年同期と比べ20.2ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

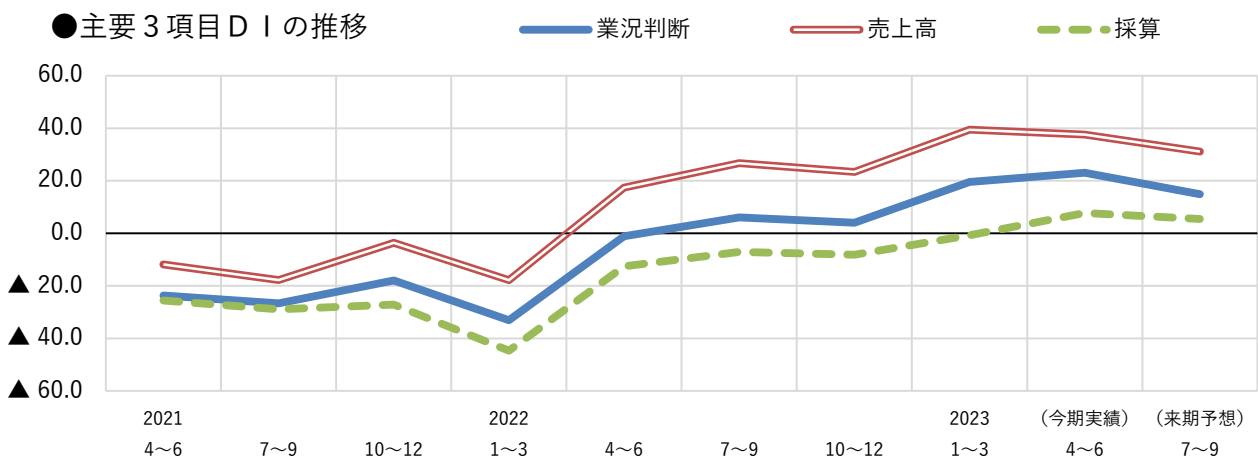


今期の採算DIは7.7で、前年同期と比べ20.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



●主要3項目DIの推移



従業員、今期の雇用状況

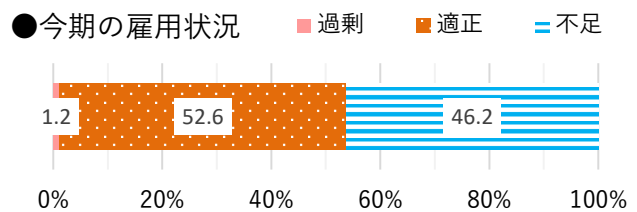
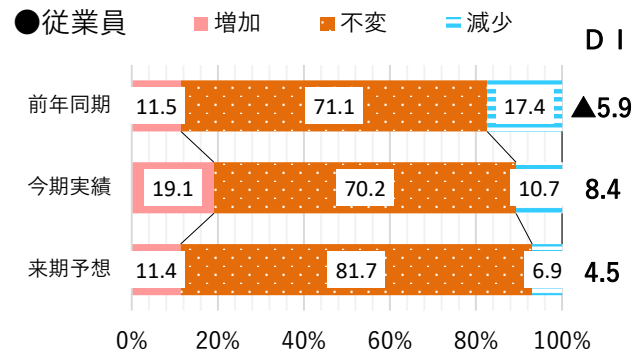
今期の従業員DIは8.4で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.2%、適正であると回答した企業の割合は52.6%、不足していると回答した企業の割合は46.2%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、41.7%を占めました。

回答全体では、50.6%が適正規模の従業員を確保できていると回答しましたが、48.1%は従業員不足と回答しています。

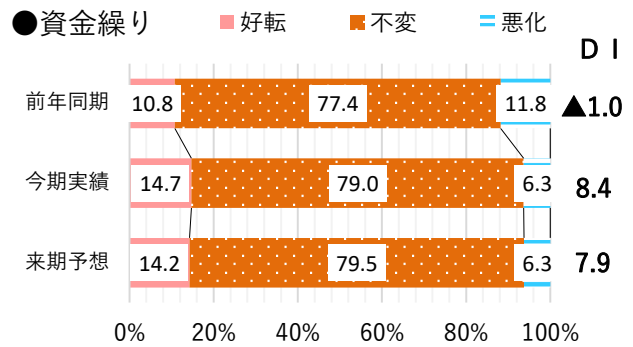


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	12
	不足	21
不変だった	過剰	1
	適正	66
	不足	39
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	16

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは8.4で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった158社の41.1%にあたる65社が実施、前年同期と比べ8.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」、「付帯施設」(同位)の順です。

来期は、37.3%にあたる59社が設備投資を計画していると回答しています。

